

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した

大会運営ガイドライン

《基本方針》

- 安全を最優先にする
- 「新しい日常」「新しい生活様式」への適応を行う
- 不当な扱いや差別などの禁止（誹謗中傷を行わない、許さないこと）

1 部活動及び大会参加について

- (1) 陽性又は濃厚接触者となった選手・職員については、保健所が指定する解除日まで、大会参加はできない。但し、濃厚接触者については、最終接触日から4・5日目の医療用抗原簡易キット検査で陰性であれば5日目解除となるのでその限りではない。
- (2) 保健所等による濃厚接触者の特定・行動制限は行わない地域において、同居家族以外の感染者と接触した者が登校可能となった場合は、部活動及び大会参加はできる。
 - ①学級閉鎖、学年閉鎖、学校閉鎖に該当する者は、学校長及び主催団体の指示に従うこと。

2 大会運営に当たって

- (1) 選手、保護者の意向を尊重して大会の参加を強制しないこと。
- (2) 発熱はたは体調不良（咳や倦怠感等）がある場合や健康に不安のある選手（微熱、風邪症状等）は、参加しないよう徹底すること。
- (3) 大会に向けた日頃の練習や練習試合等から当ガイドラインに沿った感染予防対策を徹底すること。
- (4) 選手には、免疫力を高めるため、十分な睡眠、バランスの取れた食事を心がけさせること。

3 三密を避ける取組み

- (1) 大会会場（体育館）に入場できるチームの人数を制限する。
 - ① 大会会場（体育館）に入場できる関係者数は以下の通りとする。
 - 選手 15 名（大会参加登録された選手のみ）
 - チーム関係者 4 名（H コーチ、A コーチ、マネージャー、チーム責任者）
 - 原則として、保護者の観戦は 15 名以内とする。ただし、感染の状況、各市町村体育館（小学校を含む）を管理する団体のガイドラインによって、制限または解除される場合がある。
（大会前日までに人数は周知する）
※保護者はギャラリーからの観戦とする。
 - (2) 試合間で選手及びチーム関係者を入れ替えるため、試合間を 20 分間程度空ける。
 - ① 試合が終了しベンチ等の消毒終了後、選手及びチーム関係者全員が大会会場（体育館）から出てから次の試合の選手及びチーム関係者が入るようにする。
 - (3) ギャラリーで観戦する保護者は、ソーシャルディスタンス（両手を広げた間隔）を心がける。
※大きな声を出しての応援等は禁止とする。（飛沫防止のため）

4 検温及び健康観察について

- (1) 大会当日の朝、必ず検温及び健康観察を行い、健康チェックシート(別紙)に記入する。
 - ・熱はないか ・咳や鼻水などの風邪症状はないか
 - ・だるさや頭痛はないか ・息苦しさはないか※発熱や風邪症状のある選手やチーム関係者、保護者の大会参加、観戦は認めない。
- (2) 「健康チェックシート」は朝のミーティングで提出する。(毎日提出する)
- (3) ベンチ入りするスタッフ(4名)及び観戦する保護者は、ネームタグ等を行うこと。
 - ※タグは各チームで準備する。
 - ※タグをしていない方の観戦は認めない。
- (4) 大会会場入り後に発熱症状等、体調不良の選手等は帰宅すること。
- (5) 大会終了後、帰宅後も検温及び健康観察を行い、記録しておくこと。
- (6) チーム関係者(保護者も含む)及び大会関係者等、体育館へ入場するすべての者は、2週間前から健康チェックを行い、記録しておくこと。

5 手洗い、うがい、消毒について

- (1) 体育館への入館前と退館後は手洗い、うがい、消毒を行う。
- (2) ワンプッシュ石鹸、消毒液等は各チームで準備する。
- (3) 手洗い後の手をふくタオルは共用しないこと。
- (4) 消毒をおこなう箇所の分担をしておくこと。(参加者全員で作業に取り組めるようにする。)
 - ベンチ:試合で使ったチーム ○TO席:TOを行ったチームの選手及び保護者(大会役員)
 - 本部席:大会役員 ○ギャラリー:観戦したチームの保護者

6 マスク等について

- (1) 基本的にマスクは会場入りから帰宅まで、全員着用すること。
- (2) 試合前の練習、試合に出ている選手はマスクを外す。
- (3) 試合に出していない選手及びベンチ入りするチーム関係者はマスクを着用する。
- (4) 外したマスクは清潔に保つようにする。(個別の袋等を用意して入れる。)
- (5) マスク着用時も水分補給をこまめに行う。

7 試合中の注意事項

- (1) 試合前の声出しや円陣は行わない。また、ハイタッチも行わない。
- (2) 試合前及び試合終了後の握手は行わない。(キャプテンのあいさつもしない。)
- (3) ベンチにいるメンバーはソーシャルディスタンスを意識する。
- (4) タオルや飲み物用のコップの共用はしない。(各自で用意する。)
- (5) マスクを外しての指示やアピール等をしない。(飛沫防止のため)
- (6) マスクを着用しても大声でのコーチングや応援は行わない。(飛沫防止のため)

8 大会前の対応について

- (1) U12 部会及び参加チームはそれぞれ感染対策責任者(担当者)を設置し、事前・大会期間中・事後に相互が連絡を取り合える環境を構築すること。
※12 部会は部会長を感染対策責任者とする。
※大会参加申し込み書に記載のあるチーム責任者を感染対策責任者とする。
- (2) U12 部会は、大会参加チームの連絡先を管理すること。
※個人情報保護法に則って適切に管理を行う。
- (3) 大会関係者は、新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)のダウンロードを推奨する。
- (4) 大会2週間前から各チームは健康チェックを徹底すること。特に発症の2日前(48時間前)からは感染リスクが高まるため、健康チェックを徹底しておくこと。

9 その他

- (1) 常時窓を開けて換気を行う。雨天時はハーフタイム及び試合間に行う。
- (2) 控え場所やミーティングの際には三密にならないようにする。
- (3) 個人用の水筒を準備する。(補給する分も用意しておく)
- (4) 大会期間中に気分が悪くなった選手は保護者へ連絡し、帰宅させる。
(保護者が迎えに来るまでの控え場所は、他の者と距離を置くこと)
- (5) 試合終了後、自チームが観戦したギャラリーの手すり等は、消毒液を使って消毒すること。
- (6) 大会終了後、自チームの控え場所は、消毒液を使って消毒してから帰宅すること。
- (7) 体育館2階からの観戦は、ソーシャルディスタンスの範囲内で認めるが、守れない場合は禁止とする。
- (8) 試合終了後の入れ替えは、密にならないよう順番を決めて行う。(大会本部の指示)
- (9) 陽性者、濃厚接触者がチーム内で出た場合は、大会主催感染対策責任者(理事長)へチーム状況の報告を行い、大会参加の可否について協議する。
※JBAガイドライン、県教委ガイドラインにより判断する。
- (10) 大会に参加しているチームの学校が臨時休校等となる場合は、感染対策責任者(チーム責任者)と大会主催感染対策責任者(理事長)で参加の可否を協議する。
- (11) 大会終了後2週間以内に新型コロナ感染症を発症した場合は、速やかに大会主催感染対策責任者(理事長)に報告し、指示を仰ぐようにする。
※発症から過去2週間の検温を確認する場合がある。
- (12) チーム事情により大会に参加できないチームが多数ある場合は、大会を開催するか再度検討する場合もある。

参考資料

- JBA「バスケットボール活動再開に向けたガイドライン(第4版)」
- 沖縄県警戒レベルの判断基準
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した 大会運営 ガイドライン
(沖縄県バスケットボール協会U12部・11/7版)
- 沖縄県対処方針変更に伴う令和4年4月1日以降の県立学校における部活動について(通知)